

### ニューヨークセンターの活動と展開

ニューヨークセンターは、1977年の設立当初「伝道庁に心をつなぎ、その理を十二分にいただく」、「センターが単なる集いの場、親睦の場に終わらず、心を磨き、種をまき、徳を積む場所となるよう運営していく」との方針を定めた。そして、そのために「当時のニューヨークは、信仰上、陸の孤島の感があり、現地の人々にとって伝道庁は物理的にも精神的にも極めて遠い存在であった。そうした中、度重なる伝道庁巡教をいただく一方、伝道庁の婦人会、青年会総会に現地の代表を送るなどして、伝道庁がより近い存在となっていくよう努力が払われた」(漁野 1993年、13頁)のである。

2017年に設立40周年を迎えたニューヨークセンターは、アメリカ本土東部の天理教の中心的存在として、現在様々な活動を展開している。今回は、同センターやアメリカ伝道庁の機関紙の記録などから、設立からこれまでの歩みとして、主だった活動をまとめる。(これは筆者によるもので同センターの公式なものではない。)

#### 開設(1977年)～1986年

1977年1月に開所式が行われ、初代所長に上原真雄氏が任命された。4月に第1回の少年会おとまり会が開催され、9月にはニューヨーク地区婦人会が発足している。翌年に入ると、それまで半下りでつとめられていた月次祭のおつとめが12下りつとめられるようになった。また5月には、月次祭で初めて日本語と英語の両方で祭文が奏上されている。そして9月に天理教を紹介する陽気ぐらし講座が開催された。

1979年9月、奥井俊彦氏が2代所長として着任。翌月から機関誌『センター連絡』(日本語と英語)を発行。これが現在の機関紙『せいじん』のもととなった。1981年7月、中山善衛3代真柱がブラジル巡教の途次ニューヨークに立ち寄り、歓迎パーティーに140名ほどが参集した。これが一つの契機となって、それまで20～30名であった月次祭の参拝者が倍増し70名ほどになった。またこのころからおつとめの内容充実が強く意識されるようになり、1983年8月には奉仕者全員がおつとめ着を着用し、スペースの問題から4人でつとめていたおどりを、2列で6人に変更。また地唄の旋律を統一するため、3代真柱のテープにあわせて、「みかぐらうた」の節回しの練習が行われるようになった。こうして1984年5月には月次祭参拝者が初めて100名を越えた。

#### 開設10周年(1987)～1996年

1987年2月に、神床と参拝場を改築する神殿普請とニューヨーク伝道史編纂という10周年記念事業が発表された。同年5月、192名の参拝者と共に10周年記念祭がつとめられた。6月には、アメリカ伝道庁の4代庁長(在任1959年10月～1965年3月)であった深谷忠政氏のおたすけが開始。以後10年間に渡り、毎年数回実施された。

この頃から布教活動推進のため、ニューヨーク社会との接点を求める計画が進められ、1988年11月に日本語学校設立実行委員会の第1回会合が行われた。その後、現地での調査、アメリカ伝道庁や海外布教伝道部関係者との協議の結果、最終的に日本語学校を中心としたニューヨーク天理文化協会を、マンハッ

タン南部のソーホーに設立することが決定した。1991年2月、日本語学校が開校し、9月には第1回ギャラリーが開催された。

1993年、増野正志氏が3代所長として着任。センター設置時には、布教所1カ所、ようぼく15人であったが、15年ほど経過して1993年には教会2カ所、布教所5カ所、ようぼく数140人ほどとなった。

#### 開設20周年(1997)～2006年

「20周年の旬にはおたすけ活動を芯とするセンターの活動と、にをいかけ活動を中心とする文化協会の活動、この二つを一つに一手一つに進むことを目標として進み」(寺田 2017年、2頁)、1997年5月、20周年記念祭がつとめられた。この直後に4代所長として森下敬吾氏が着任。森下所長は、すでにアメリカ伝道庁で柔道場を開設していたが、ニューヨークでも早々に柔道場を開設。7月には、「にをいかけ」の一環として「第1回てをどりインマンハッタン」が開催された。またこの頃、ジャパソサエティー主催「日本の祭り」でのお祓いや雅楽演奏、青年会によるエイズウォークへの初参加、また国際連合本部で開催された「諸宗教の集い」へのメインゲストとしての招待など、地域社会の様々な活動に参加するようになった。

1991年に開設した文化協会は、財政的な問題やより活発な対社会活動展開の点から移転が検討され、2000年12月に現在地グリニッジビレッジに移転した。翌年2月には文化協会設立10周年を迎えた。

2001年に入ると、手狭な神殿を解消し、さらなる布教活動の展開を目指して、2007年のセンター30周年に向けて、森下所長によって神殿ふしんが打ち出された。ふしん金を募るため、ヘアカット、フードバザー、ガレージセール、「感謝」Tシャツの作成と販売など、様々な活動が行われた。またこの頃には、毎夏に教会本部で開催される海外子弟育成行事であるおやさと練成会の修了生によるパネルディスカッション、文化協会での子供日本語クラス開講、女子青年による「こかん様に続く会」初開催など、子弟育成への取り組みもいろいろとなされるようになった。

#### 開設30周年(2007)～現在

2007年6月、センター開設30周年記念祭がつとめられた。翌2008年、新神殿が完成し、12月7日に神殿竣工及び奥井俊彦5代所長の就任奉告の月次祭がつとめられた。その後、2012年5月には弓削マイケル氏が6代所長に就任、そして2017年5月には三濱治郎氏が7代所長に就任し現在に至っている。

センターの主な活動としては、月次祭(第1日曜)、Joy Workshop(天理教紹介講座)、Three Day Course、機関誌『せいじん』『Progress』発刊、てをどりインマンハッタン、天理ウォーク、ひのきしんデー、にをいかけデーなどがある。また毎週、柔道と雅楽の練習がそれぞれ行われている。さらに、婦人会、青年会、少年会、学生会の各会も、総会、鼓笛隊活動、南部・北部巡回などさまざまな活動を定期的に行っている。

#### [参考文献]

寺田好和「祭典講話」『せいじん』2017年6月号、1～6頁。  
漁野徳明「ニューヨーク・センター」『海外布教伝道部報』339号、1993年5月26日、13頁。